



グローバルPBL体験談

実施年度	2021年度
プログラム連番	146
実施形態	オンライン
担当教員	環境システム学科 中村仁先生
実施期間	2021年10月23日～11月27日
実施協定校	スラバヤ工科大学（インドネシア）

参加学生体験談（要旨）

環境システム学科

学部3年生

私は英語でのコミュニケーションの練習のために、このgPBLに参加しました。このgPBLは2回目で、前回のgPBLが、初めて外国の学生とコミュニケーションをとる機会になりました。最初は全くコミュニケーションが取れず、英語が話せる学生に任せきりでしたが、回を重ねるごとに、自分の主張を少しですができるようになり、その時交流した学生とは今でも連絡を取っています。この経験がとても役に立ったと考えているため、今回もこのPBLに参加しました。

今回のPBLでは、前回よりは積極的なコミュニケーションがとれて、円滑に話し合いが進んだように思えました。また、今回はIHIという企業も参加していたため、技術的なアドバイザーとして私たちを助けてくれました。英語でのコミュニケーションは、英語の知識も大事ではありますが、一番大切なのは、なにかを伝えようとする積極性だと思います。私もまだ、伝えたいことを全て伝えられるわけではありませんが、このPBLで、文法はめちゃくちゃでも伝えようとするれば、外国の学生も理解しようとしてくれるということがわかりました。外国の学生と話す機会はめったにないことなので、PBLに参加することをお勧めしたいです。

環境システム学科

学部2年生

本プログラムに参加した理由は、留学に向けて海外の方と交流する機会を増やさなくてはならないと思ったからです。確かに同じグループになった人は、初めて会う人なので勇気をもって行動しなくてはならないのですが、交流できた後の達成感や自分の成長を感じることが出来ます。参加した結果、まだまだ、英語で流暢に会話をする事ができなかったですが、チャットやジェスチャーなどを使って自分の考えを示すことができるようになりました。実際に相手に自分の考えが伝わると楽しいし、それを次は言語化できるようにしたいと英語を勉強するモチベーションにつながりました。

環境システム学科

学部4年生

今年もこのプログラムに応募したのは、昨年初めてこのプログラムに参加する時、非常に興味深い経験をし、インドネシアの文化や物事に対する真剣さや厳しさを、彼らとの交流を通して多く学ぶことができたからです。今年プロジェクト全体のプロセスは、昨年よりもはるかに充実したものになりました。特にwhatAppを使ったことで、私たちの間のコミュニケーションがより簡単でスムーズになりました。そして、昨年に比べて日本文化の紹介や共有も盛り込まれ、より密な交流ができるようになりました。

参加学生体験談（要旨）

環境システム学科

学部2年生

gPBLは年に数回実施されていますが、今回のプログラムに関しては、グループでの活動が濃い印象を受けました。プログラムを一貫して同じグループメンバーとのディスカッションや、プレゼンテーションを行ったので、英語で話すのことに慣れるという意味では、徐々にメンバーと距離を縮めることができるので、とても良い環境だったと思います。しかし、私は今回勢いまかせて参加してしまい、開催が土曜の日中ということもあり、スケジュール管理が行き届かずに、受け身の参加が多くなってしまったので、よりよい経験を積むためにも時間の余裕があるときに参加することをおすすめします。

環境システム学科

修士1年生

インドネシアの電力に関する問題に関心があったため、今回の本プログラムに参加しました。グループ内の提案として進めていく中で、自分自身がまわりの意見とどう向き合っていくか考える場面があり、難しい面があったと思う。話す・聞くが慣れない面、パワーポイントやシェアボードで書いて多角的に表現するなど討論に参加するための努力することの大切さは今回のプログラムを終えて思ったことです。短い期間、ありがとうございました。

環境システム学科

学部2年生

これまでも違うプログラムに参加させてもらっていましたが、今回のプログラムは、他の国の人とプレゼンテーションで自分たちの意見を提案すると言うところまでやるという今までで一番内容が濃いものでした。話し合いをしている中で専門的な単語が沢山出てきて戸惑うこともありましたが最後終わった時は達成感がありました。

環境システム学科

研究生

自分が所属している研究室の増田先生に、このプログラムを紹介していただきました。実施概要を読んだ際に、私の研究分野の内容がgPBLに含まれていて興味もあり、併せて英語力を改善したいと思い、参加にしました。プログラム実施中、英語が母国語ではない私のために、グループメンバーが英語を話すスピードを緩くしてくれたりしてくれて、いろいろ勉強になりました。また、プログラム終了までに、グループのみんなと友達になりました。このプログラムは自分にとって楽しい経験となりました。

参加学生体験談（要旨）

環境システム学科

学部2年生

なかなか海外の人と一緒に1つの問題に対して意見を交換して取り掛かることは少ないのでとてもいい機会になると思います。そしてこの授業を通して自分の英語力の無さを痛感しこれからもっと頑張ろうという意力が湧いてくるいい機会になると思います。もし英語が得意でなくて出来るかなとかで迷っていたらまず参加してみることをオススメします。

環境システム学科

学部4年生

今回のgPBLプロジェクトは楽しい経験になりました。私はたくさんの知識を学び、リラックスした雰囲気の中で新しい友達を作りました。感染拡大の影響で、インドネシアでこのプロジェクトに対面参加ができなかったことは残念だと思いますが、ITSの学生の様々な紹介を通して、この国の文化と知識について多く、自身の英語力を向上につなげることができました。

環境システム学科

修士1年生

海外の学生と問題解決ワークショップを行える機会は、日常ではほとんどないため、貴重な機会だと思い参加しました。毎週土曜日10:00~13:00 ×6週実施し、最後には最終発表会がありました。私のグループは、ITSから3名、SITと津田塾から2名で構成され、スラバヤ市の障害者支援をテーマに問題解決ワークを行いました。

英語を使用した、価値観の違うITSの学生とのディスカッションは、通常の日本人学生とのグループワークとは一味違った難しさがあり、意見を合わせていくことに苦労しました。ただ、ITSの学生から、自分にとってあまり馴染みのない考え方を聞けたり、逆に日本の先進的な取り組みが提案のヒントになったりと、国際交流のアドバンテージを少し感じる事ができたような気がしました。当たり前のように、定期的にgPBLのような機会を提供してれる芝浦に感謝します。

総合政策学部 総合政策学科（津田塾大学）

学部3年生

初めは英語で話し合いができるか不安でしたが、聞き取れなかったり理解出来ない時は迷わずもう一度ゆっくり話してほしいとお願いしたことで自分がグループの中で置いてけぼりにならなかったです。頭のなかで考えるよりも伝えたいことを伝えてみようという姿勢が大事だなと思いました。